

●書評

B O O K R E V I E W

BR

「デビッドソン内科学 原著第21版」

(Nicki R. Colledge・他 著/福井次矢 監訳)

- 1,464頁
- 定価 20,000円+税
- 医歯薬出版刊

本書を手にして、内容をみたところ、第1部が「内科診療の基本」、第2部が「内科診療の実践」の2部構成になっている。第1部が内科学を横断的に扱う総論的なテーマであり、7つの章で構成され、第2部は各臓器を系統的に扱っている。

本書は、まず第1部「内科診療の実践」の内容が充実しており、これから内科学を学んでいく際に必要な知識が網羅されている。これまでの内科学の教科書では、とかく総論的な部門の占める割合が少なかったが、本書では7つの章に分けて詳細に記載されている。

近年、ヒト全遺伝子が解明され、遺伝子と疾患のかかわりが明らかになりつつあり、一方で一般人でも容易に遺伝子検査が出来る時代となっている。第1部・第3章では、疾患理解に必要な分子生物学や遺伝学を初学者でもわかりやすく記載されており、指導医層の医師たちには知識の整理となるような内容となっている。

各疾患の治療を行う際には、適切な薬剤選択や治療行為が必要であることはいまでもないが、治療効果を最大限上げるためには、栄養を与えることも重要である。第5章では、栄養要因について基礎から実践までが記されており、入院および外来診療において留意すべき事項がまとめられている。

わが国の人口は高齢化が進んでいることはす



に明らかであるが、高齢者に対する医療について、臨床医は知識の習得が必要となってくる。第7章「老化と疾患」では、高齢者の生理学といった基礎医学の側面から臨床的な側面までまとめられていて、高齢者医療を行う際に非常に参考になると思われる。

第2部では臓器ごとに、診察所見、機能解剖学と生理学、臨床検査の基本、疾患各論と、標準的な内容が系統立ててまとめられている。各章目ごとにまとめの表やイラストが充実しており、知識の理解に配慮されている。また疾患各論の治療については、適宜 EBM にかかわる項目が提示されており、根拠となる論文名も記載されており、忙しい臨床業務のなかでは大変有用である。

本書は、英国で発行された内科学の教科書であるため、総合医 (general practitioner: GP) に必要な知識を習得させるために幅広く内容を扱っているが、疾患によっては最近のトピックなども取りあげており、より深い学習への道筋を示している。本書により内科学を横断的かつ縦断的に学べるので、初学者のみならず、内科学を一通り学んだ指導医にも是非とも読んでもらいたい。

(東京医科歯科大学医学部附属病院総合教育研修センター/消化器内科、
井津井康浩/いついやすひろ)